

### 第 3 回国連防災世界会議で保健医療に関するパブリックフォーラムを主催しました (2015/3/16)

テーマ：「広域大規模災害に対する保健医療の備え」

場所：東北大学川内北キャンパス（仙台市）

仙台市において開催された第3回国連防災世界会議において、3月16日に当研究所 災害医学研究部門の江川新一教授が JICA とともに、パブリックフォーラム『広域大規模災害に対する保健医療の備え』を共同開催しました。200名定員の会場がほぼ満席となり、2日前に大型サイクロンにより甚大な被害をうけたバヌアツ共和国への黙とうをささげたのちに開始されました。参加者はアンサーパッドを配布され、最初にサインインをしたのち、参加地域、職種、ヘルスクラスタミーティングについての知識の有無、国際医療支援のルールに関する知識の有無などでウォーミングアップを行いました。それぞれの演者の発表のあとに、その“備え”が災害サイクルのどの段階で有用であるのかについての意見をアンケート調査として行われました。

第1部は、ワークショップ形式で、前半に災害感染症学分野浩からフィリピンとの共同研究についての報告、札幌医科大学から結核流行の季節性について、ハワイ大学からバイオハザードとしての HIV 感染症についての報告がありました。会場からはエボラウイルス感染症の大流行への関心からくる質問やコメントがいくつも寄せられました。静岡県立総合病院からは、感染症専門ナースに対するアンケートによる災害対応の意識調査結果が報告され、医療従事者の危機意識を高めることの課題が示されました。ついで災害放射線医学から東日本大震災における緊急被ばく医療対応についての報告がなされ、今後の放射線災害に対する備えについての質問が多くありました。WHO では原子力災害に対するガイドラインがすでに作成されており、情報の共有化が不足していることも実感されました。災害医療情報学からは平時からの備えと情報共有のメカニズムを作成しておくことの重要性が発信されました。

第1部後半では、フィリピンの台風ハイエン災害で甚大な被害を受けた EVRMC の Aileen Espina 院長が急きょ出席できなくなったため、EVRMC が台風ハイエンによりどのように被害を受け、復旧・復興に至るまでのビデオが上映され、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。ついで、JICA の中路潤子さんからわが国の緊急医療支援がどのように行われ、組織として JICA がつねに改善の工夫をしながら対応を強化していることが紹介されました。診療記録を電子化し、電源やインターネットが利用できない環境でも機能する器材とソフトウェアが導入されています。WHO 西太平洋オフィスにより開発された避難所あるいは地域ごとに疾患のアウトブレイクを報告するソフトウェア SPEED を日本版に改訂したものが導入されています。ついで、タイの DMAT についての教育と訓練体制の報告がありました。コマンドコントロールシステムに則った行動原則や、DMAT としての組織力が強化されており、現時点では国内の災害保健医療対応のみを行っていますが、将来的には ASEAN のなかで、共通ルールを作成し、国際医療支援も視野に入れているとのことでした。最後にインドネシア保健省からはすでに災害統計が内閣府で実施されており、災害の大小にかかわらず保健医療分野も含めた統計が集められはじめていることが報告されました。地域社会の災害に対する意識を向上させることによって災害に強い健康な社会をめざしています。またインドネシア西部と東部に分けて緊急対応体制をとっており、保健医療機関が災害対応を行うための法的整備もなされています。

(次ページへつづく)

第2部では、静岡県危機管理局が開発した避難所運営ゲーム(HUG®)を静岡県の許諾を得て英訳したものを海外からのパブリックフォーラム参加者とともロールプレイングゲームとして実施しました。雨の降る寒い午後に地震が発生し、小学校の指定避難所に多くの被災者が避難してくるというもので、障がい、感染症、怪我、慢性疾患、メンタルヘルスの問題などを抱えていたり、地域に居住する外国人、旅行者、ペットを同伴しているなどさまざまな背景を持った世帯が避難してきます。すべて英語で行われました。スライドも英訳したものをを用いて説明したのち、3つのグループに分かれてチームビルディングを行ってから、約30分にわたって避難所の運営を行いました。それぞれのチームはさまざまな国、年齢、性別のメンバーからなり、楽しい中にもそれぞれの意見を尊重しながらつぎつぎとカードを配置していきました。大変興味深かったのは、ペットを家族と同伴させるか、させないかで、チームにより意見が分かれたことです。文化的な背景や考え方の違いを尊重して作業をすることにより正解がひとつではない作業に全員真剣に取り組んでいました。



IRIDeS/JICA のパブリックフォーラム参加者



会場からの質問をうける座長の James J. James 米国災害保健医療学会理事長



バヌアツ共和国への対応のために欠席となった事務局長の代理で講演する JICA 中路氏



避難所運営ゲーム(HUG®)に取り組む国際チーム